

令和6年2月

(一社)新潟県野球連盟

ジュニア(小中学生)層に関する基本方針

(一社)新潟県野球連盟

日頃より当連盟の活動にご理解、ご協力をいただき感謝申し上げます。

中学校の部活動地域移行を契機とし、スポーツ庁からは、特に小中学生層における現在のスポーツ環境や大会等についての改善を求められています。

全国大会が継続して開催される現状において、強化と普及に関する考え方についての問い合わせもあり、当連盟としての方針をお伝えします。

基本方針

- ・ 人間形成と生涯に渡り野球に親しむ基礎を培う世代と位置付け普及を重点とする。
- ・ 個々の人格を尊重し、子ども達の将来の夢を壊すことは行わない。
(ハラスメントや投球障がい等による野球離れを防ぐ。)
- ・ 勝利は「目標」であり「目的」ではないことを理解し、決められた(推奨された)ルールや方針に沿った活動の中で、工夫し目標の達成を目指す。
- ・ 部活動地域移行に関する中学生の地域クラブに関しては、あくまでも部活動からの移行であることから、所属の市町村の方針にそったチーム編成とする。
- ・ 少子化により、各チームの人数減少が見込まれるが、他のチームからの引き抜きや勧誘は行わず、他のチームとの合併等を考える。
- ・ シーズンオフ設定を遵守する。(裏面の参考資料参照)

参考資料 オフシーズンに関すること

(公財)全日本軟式野球連盟 2019「学童野球に関する投球数制限のガイドライン」

5 選手の障害予防のための指導者へのガイドライン

- ① 試合をしないシーズンオフを少なくとも3ヵ月をもうける。
- ② 練習前後のウォーミングアップ、クーリングダウンは少なくともそれぞれ20分以上行う。
- ③ 複数の投手と捕手を育成する。
- ④ 選手の投球時の肩や肘の痛み（自覚症状）と動き（フォーム）に注意を払う。
- ⑤ 正しい投げ方、肘に負担をかけないための投げ方への知識を高める。
- ⑥ 選手の体力づくりに努める。
- ⑦ 運動障害に対する指導者自身の知識を高める。
- ⑧ 勝利至上主義から育成至上主義への学童野球のイノベーション。
- ⑨ 医師の検診結果への充分なる対応をしていく。

※少年（中学生）層では12月～2月をアウトオブシーズンと位置付け、試合（練習試合を含む）を禁止しています。高野連も同様のアウトオブシーズンを設定しています。

注）中学、高校では「アウトオブシーズン」、学童では「オフシーズン」と呼んでいますが、意味することは同じです。

改善すべき事例

- ・ 連盟主催ではない大会において、投球数制限を守らないこと。
- ・ 一日に主催者の異なる2つの大会等において、それぞれ違う大会であることを理由に、投球数制限の解釈を1試合あたりと変更し、1日の規定投球数を超えること。
- ・ 冬期間（オフシーズン中）に、練習試合や試合形式等で、選手の投球障がいの発症を招くこと。

関連資料

- ・ 2024 競技者必携 P56 §4 試合中の禁止事項 「2」
- ・ P61 競技者のマナーに関する事項 「10」
- ・ 2023年6月8日 学童チームへの保護者参加についての考え方(通知)

ご理解とご協力をお願いします。